

ASAP あきる野 多摩川学園 カンボジア校通信

NPO 法人「アジアの子どもたちの就学を支援する会」(ASAP)

アサップ



裁縫プロジェクト担当のお母さん達

CONTENTS

- トロク・タットム小学校の近況…P1
- タットム小補強修繕工事終了…P2
- ルムチェック中学校に教科書寄贈…P3
- ルムチェック地区近隣小学校視察…P3
- 井戸水安全のご報告…P4
- いずみの会様寄贈井戸完成…P4
- カンボジアのお母さん達による
手作り品販売大成功！…P5
- 守ることができた一つの「光」…P6
- カンボジア写真館…P6
- 次回カンボジアツアーのお知らせ

2009. 3

Vol.4

100年に一度といわれる経済危機にも関わらず、今年度も多くの方からの支援金が寄せられております。心より感謝申し上げます。ASAPは皆様の支援金を一番必要とされる所に直接届け、又、どこでどのように生かされているのかを明確にお伝えするために、年に2回自費による現地訪問を実行しています。プチ通信でお知らせしました様に、2008年12月13日～17日、ASAP理事長長谷川と事務局大沼が現地を訪問してまいりました。訪問のご報告と共に、ASAPの活動報告をさせていただきます。

トロク小学校の近況

3人の契約教師が出産の為退職し、新任教師4人（契約教師）が配属になっていました。（契約教師の場合、子供が出来ると退職しなくてはならない決まりがあるということです）教育支援金（一人月30ドル×6ヶ月分）を支給してきましたが、新任の先生4人にはまだ支給はしておりません。契約教師のお給料は、一年目は月25ドル、2年目30ドルです。本当に少ないお給料です。

制服支給が功を奏して未就学適齢児がいなくなったとの嬉しい報告がありました。又、就学適齢以前の子供達（5才）の幼児クラスが増設されたそうです。

トロク小での一番の大きな変化は、学校裏にプラスチックごみ、可燃ごみ、生ごみに分かれたゴミの分別所が作られていたことでしょう。



これまでの訪問で校庭中に落ちているゴミの問題を度々指摘してきた成果かも知れませんが、ごみ収集があるわけでもない為、既に生ごみブロックは満杯状態。プラスチックごみに関しては、今後どのように処分されるのかは、質問しても不明でした。この先のカンボジアの発展と共に、ごみの問題は大きな課題になってくるであろう事を暗示していました。

その為今回から、子供達へのお土産にプラスチックゴミがでない物を持参することにしました。

タットム小学校の近況

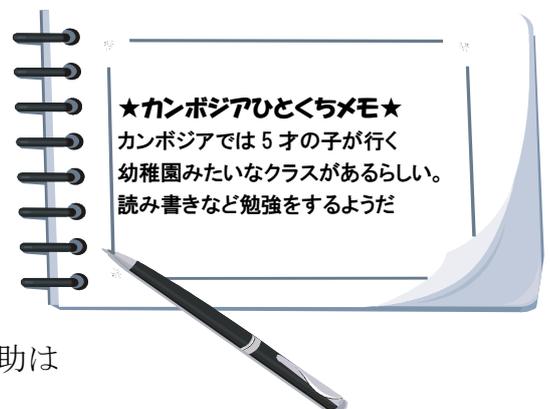
先生の異動はなく、全員に教育支援金を支給してきました。

トロク小同様、**制服支給のうわさがお母さん方の口コミで広がり**、現在未就学適齢児が0になったとの報告がありました。就学適齢以前の子供達（5才）も学校に来はじめた為、一クラス増加したそうです。（トロクと違い、幼児クラスはない）

<タットム小校長日本語研修費用打ち切りの報告>

タットム小校長のマオ先生の希望と、我々との意思疎通のために日本語を勉強してもらう費用を援助してきました。しかし援助をして2年ですが、先生の日本語能力の向上が感じられず、継続に懸念の声が上がっていたところ、先生の通う日本語クラスが閉鎖されたと聞き、研修費用援助は打ち切りにすることを決めました。

日本の英語教育を見てもそうですが、普段接する機会のない語学を身に付けることはやはり簡単にはいきません…。残念でした。



ついに未就学適齢児

ゼロ 達成!



<先生たちとの Q&A>

Q 「一年生で未就学の子供はいるか」

A 生徒への制服支給の効果か、現在0になった。

Q 「その割には、1年生の入学人数が減っているが」

A 幼児クラスが1クラス増えた為。

今までは5才の子供も1年生のクラスに入っていた。

Q 「制服の支給で他に変化はあるか」

A (教育庁への) 報告書に良い報告がかけて嬉しい。

Q 「学校へこなくなった子の追跡はしているか」

A グループを作って追跡はしているが、親の出稼ぎについていく子供が多く、それを復学させるのは難しい。

★全く把握していなかった以前に比べかなりの成果です

Q 「支給が始まって、何か変わってきたことはあるか」

A 先生が休まなくなった。

Q 「先生への支援金によって、意欲はわくか」

A やりがいがある。

先生が週に何日かしか来ない学校が多い。

タットム小学校補強修繕工事終了

カンボジア通信 Vol.3 でお知らせした『タットム校手抜き工事』について、その後の経過を報告させていただきます。日本での留学を終えプノンペンで語学学校と土木建築会社を営んでいるフォンさんに依頼した補強修繕工事は無事終了し、今回修繕箇所を確認してまいりました。屋根の穴、屋根の梁の補強、色落ちする壁の塗装の塗り替えを確認し、今後万が一不都合が出た場合、無料で補修する約束を交わし、ひとまず一安心しました。

カンボジア大使を通しての工事であり、工事過程を視察したにもかかわらずこの様な事態になってしまった事はお詫び申し上げますしかありません。しかし、他のNPOによって建てられた校舎が荒れたままに放置されている現場を何箇所も目にすると、費用はかかりましたが、安全な校舎へと補強できたことは、継続した支援を目標としている ASAP ならではの対応だったと思いました。これも皆様の支援のお陰です。お礼申し上げます。



屋根の補強工事には特に細心の注意を払い安全面の上からも子どもたちが安心して勉強できるように、頑丈な骨組みを作りました。

屋根の骨組みは以前のものと比べても強度や耐久性が増しました。



校舎裏側の窓枠部分は、以前は塗装が剥げていましたが、きちんと塗装を行いました。

また窓枠の劣化や開閉が出来ない窓枠もあったため、補修して改善しました。

ご覧の通り全ての窓枠が綺麗に塗装して自由に開閉出来るようになりました。

フォンさん報告書より

ルムチェック中学校に教科書の寄贈

タットム小、トロク小の卒業生が進学するルムチェック中学校は、開校3年目の中学校です。開校当初から訪問を重ね、大幅に不足している先生の指導書、生徒の教科書をどうにか支援したいと検討していたのですが、この1月、教師用教科書と生徒用教科書（全617冊）を寄贈する事が出来ました。これで一冊の教科書を7人で使う状況は改善され、一人一冊ずつ使えるようになりました。



ルムチェック地区近隣小学校視察

ルムチェック地区にある小学校を3校視察してきました。

①ロハール小学校

5年生までの生徒数300人に対し教室は3教室しかありません。

学校に来ていない子供はいますが、人数は把握できていない状態でした。

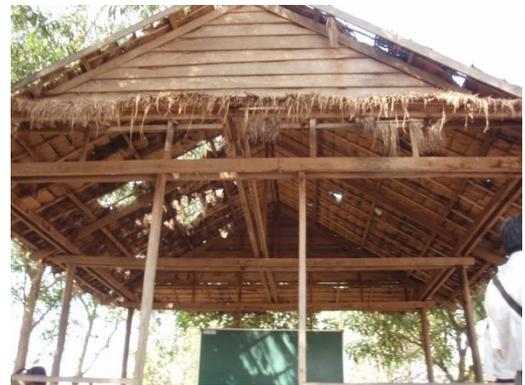
現在建っている校舎の教室の窓は壊れ、開けると危険な状態の為、窓はあけられないようになっており、子供達は薄暗い中で授業をしていました。

②プムプロム小学校

生徒数311人。専任教師2人、契約教師4名。

2教室の校舎と、屋根だけのぼろぼろの教室2つで2部制の授業を行っていますが、4年生以降の教室が足りなくなるようです。

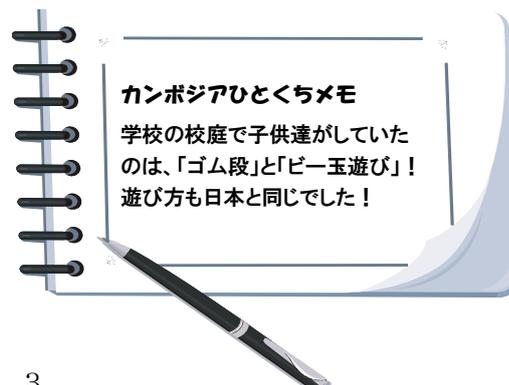
傾いた校舎のひとつは、日本人による寄付のものでしたが、建てて以来一度も見に来ていません。あの様に傾いて危険な状態になっているなど、想像もしていないのでしょうか。50%ぐらいの教科書しかなく、ノートが買えずにいるそうです。



穴のあいた教室。雨が降ると避難します

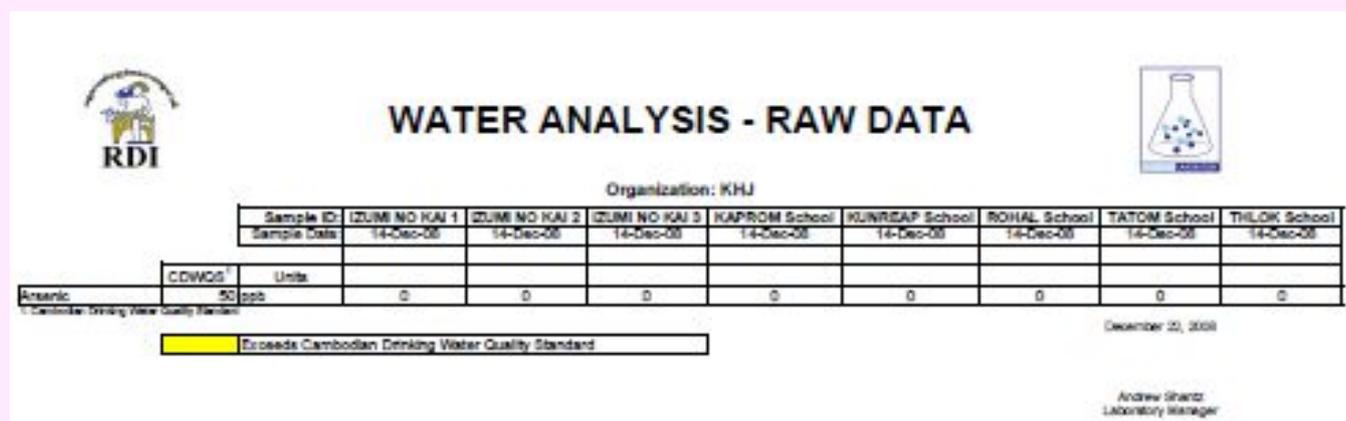
③クンリアム小学校（②の学校の隣の学校）

日本のNPOによる立派な4教室の校舎が建っていました。しかしここも2004年に建てられて以来訪問は一度もなく、継続された支援もない状態でした。



井戸水安全のご報告

昨年10月、『NPOの支援がカンボジアの井戸水砒素汚染を広げている！！』という驚きの内容がNHKで放映されてから、ASAPの寄贈した井戸は大丈夫かという不安が広がりました。放送直後からASAPは即行動を開始しました！HNKに問い合わせる等情報を集めた結果、カンボジアプノンペンに水質調査を行なうアメリカの団体（RDI）があることを突き止めました。そこから現地事務局員がいる強みを発揮できました！すぐにRDIに連絡を取り、12月訪問に合わせて専用のボトルを取り寄せる手はずを整え、訪問時には全ての井戸の水を採取し検査に回すことが出来ました。そして1月、全ての井戸が安全であるとの結果が届きました。ASAPの井戸で村民が砒素被害に合っていることはありません。どうぞご安心下さい。



Organization: KHJ

Sample ID	IZUMI NO KAI 1	IZUMI NO KAI 2	IZUMI NO KAI 3	KAPROM School	KUNREAP School	BOHAL School	TATOM School	THLOK School	
Sample Date	14-Dec-08	14-Dec-08	14-Dec-08	14-Dec-08	14-Dec-08	14-Dec-08	14-Dec-08	14-Dec-08	
CDWQS	Units								
Arsenic	0	0	0	0	0	0	0	0	
<div style="background-color: yellow; border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px;">Exceeds Cambodian Drinking Water Quality Standard</div>									

December 22, 2008
Andrew Shantz
Laboratory Manager

いずみの会様寄贈の井戸完成

昨年あきる野市「いずみの会」様よりご寄付頂いた井戸採掘費用により、三家庭に井戸を寄贈することができました。

この度の訪問で完成した井戸を確認して参りましたが、三家庭とも大変貧しく以前は近所から水を分けてもらっている状態でした。井戸ができたことによって畑の収穫も上がると、喜びが伝わって来ました。（砒素検査も終了しました）



子供が8人のクット・マエンさんの井戸



新婚のサム・チェックさんの家

カンボジアのお母さん達による 手作り品販売大成功！



販売当日の様子



手作りの遊び着でハイ！ポーズ！

カンボジア通信 vol. 3でお伝えした『カンボジアのお母さん達の手作り品』が、とうとう2月の幼稚園作品展で販売されました。

貧困のため子供を学校に行かせられない家庭の問題を考えるにあたり、ただ現金を渡す支援ではなく、何か収入に結びつく仕事が無いかと考えた時に、

「幼稚園の子ども達が使っている市販の小物の使いにくい部分を改善して、カンボジアのお母さん達に作ってもらって売れば、双方にとって問題解決になる」



と思いつき実行に移してから一年半かかりました。

計画実行にあたり、一番大変だったのは日本とカンボジアの距離でした。現地に長く滞在して手取り足取り教えるわけにもいきません。たどり着いたのは現物を使っただけの『縫い方指導書』の作成でした。運針の仕方から、ひとつひとつ実物を使っただけの指導書を作り、クメール語の訳をつけて現地に届けました。洋裁の経験がある先生に責任者としてお母さん達をまとめてもらったのですが、どれだけの裁縫技術があるか、どこまで誠実に取り組んでくれるかは全くの未知数でした。

案の定、買い取の時には若いお母さんの手抜きが発覚して、一晩で30枚の遊び着を縫い直してもらおうという事件も起き大慌てでしたが、全体的には予想以上の素晴らしい品が出来上がりほっと一安心！現金を手にしたお母さん達の嬉しそうな顔がとても印象的でした。

しかし無事商品が出来上がったとは言え、果たしてミシン製縫が当然の世の中で、日本のお母さん達に手縫いの品をどれだけ受け入れてもらえるかは、販売してみないとわかりません…。売らなくてはならないというプレッシャーは一段と高まりました。

しかし、始まってみると、製品を手にしたお母さん達からは、その細かい丁寧な仕事ぶりに驚きの声があがり、次々と購入してもらおうことが出来ました。

販売総数約400枚、用意した商品の75%を販売することができました。

販売までには、幼稚園の在園のお母さん達から色々な布の寄付や、日本で購入した布を裁断したり、日本に届いてからは洗濯やアイロンをかける沢山のボランティアの応援がありました。

今回の成功により、この計画を継続していける手ごたえを得ることが出来ました。

次回に向けて準備開始です。応援よろしくお願いたします！

守ることができた一つの『光』～女性教師が失明の危機に！～

2月に現地スタッフのコンさんが ASAP の所用でタットム小学校を訪ねた時の事です。『2日前、若い女の先生が学校の塀を修理していた時に針金が目に入り失明の危機に至っている』という事が伝えられました。シェムリアップには良い病院はなく小さなクリニックでの診断は『最悪の場合眼球摘出！』ということでした。プノンペンにはもっと良い医者があるらしいが費用がかかるためあきらめているといいます。いくらぐらいかかるのかと聞けば150ドルぐらい。150ドルのために眼球摘出とは…。その費用は ASAP で持つのでとにかくプノンペンへ行きなさいと指示を出し、すぐにプノンペンに向かわせました。同時にプノンペンに事務所をひらくフォンさんに連絡を取り、良い眼科医のいる病院を調べてもらい、病院へも付き添ってもらいました。診断の結果、シェムリアップでの治療を続けていたら視力を失っていたであろうとのこと。一週間の入院の後、眼球摘出は避けられたうえ、視力は50%回復したとの嬉しい報告が入りました。先生は泣いて感謝していたそうです。皆さんの支援でカンボジアの一人の若い女性の視力を守る事ができました。本当に良かったです。



カンボジア写真館

シェムリアップの街は訪問の度に変化を見せてくれます。とうとうデパート（日本のスーパーの小型版）が出来たと聞き、足を伸ばしてみました。並んだ食材や衣料品をみてビックリ！ネスカフェのインスタントコーヒーが15\$です。小学校の先生の初任給が25\$というのに！スーパーから車で20分も行けば下の写真の様な農村の生活があるのです。そのあまりの落差に一体村の生活はどうなってしまうのであろうと考えずにはおれませんでした。観光ではなかなか見ることの出来ない村の生活の様子です。少しですがご覧下さい。



白い杭は地雷のある場所を示しています。（地雷除去センターにて）



農村の子ども達



一体何人乗っているのでしょうか。手に注目！下にもいます



村の家の室内。家具等ありません

2009年夏 カンボジアに行ってみませんか？

2009年8月24～30日の日程でカンボジア訪問ツアーを計画しております。両校の卒業式(アルバム授与式)と新入生の制服授与式への参加、世界遺産のアンコールワットを代表とする遺跡観光やシェムリアップ・プノンペンでの観光を致します。旅行費が高額となる季節ですが、今回は4～5つ星ホテルに宿泊をしながらできるだけ費用を抑え、少しでも少ないご負担で参加して頂ける様に計画しています。

お蔭様で、毎回、ツアー参加の皆様からは、「一般のツアーではなかなかできない体験ができた」という声を頂いております。皆様お誘いいただければと思います。詳細が決まり次第ご案内させていただきます。

■■ 編集後記 ■■

今回の訪問ではっきりと感じたのは、タットム、トロク両小学校を継続して支援してきた成果です。未就学児童がゼロになり、先生が休まずに来る、そして他と比較すると整い始めた設備等、ルムチェック村の中ではかなり安定した状態の学校になったと感じます。特に未就学児童がゼロになった事に関しては、もちろん制服支給の効果もありますが、校舎を建てただけではなく定期的に学校を訪問して支援を続ける ASAP への村の人達の信頼感の高まりも背景にあるのではないのでしょうか。村の人々に接しているとそういったものを感じることができます。これもひとえに ASAP の活動に賛同して下さった皆様のご支援の賜物と感謝しております。

トロク小学校はルムチェック村の中心校です(他の学校の先生との会議等が行なわれます)その学校が安定すれば少しずつ回りの学校も変わっていくと考えられます。

周りを見渡せば、教科書やノートのない学校、穴だらけの校舎、そして貧困の為に就学出来ずにいる子供達が沢山います。今後も皆さんの寄付をより必要としている地域に届けられる様、出来る限り行動をしていきたいと思っておりますので、引き続きのご支援をお願い申し上げます。

事務局 大沼 陽子

支援金寄付について

ご寄付頂く会費又は支援金は下記口座に振り込みをお願い致します。毎月一定額でも一括のご寄付でも構いません。



■郵便振替口座 00130-2-594647

『NPOアジアの子供たちの就学を支援する会』

■西武信用金庫 秋川支店 033

普通口座 1292601

口座名 『NPO 法人アジアの子どもたちの就学を支援する会

理事長 長谷川 安年(ハセガワ ヤストシ)』

*** 注 両口座名が異なりますのでご注意下さい**

あきる野多摩川学園カンボジア校通信

ASAP 会報 Vol.4 2009.3

■発行 ※NPO 法人 アジアの子どもたちの就学を支援する会
(省略“ASAP” Asia School Attendance Partnership)

〒197-0825 東京都あきる野市雨間 429 番地
TEL 042-558-0218 (多摩川幼稚園内)
FAX 042-550-2467
URL <http://www.tamagawa-kids.jp/c-index.html>

■発行人 長谷川 安年